

地方創生関連交付金等事業評価シート

資料5-2

事業名	住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業		事業期間	平成 28 年度 ~ 30 年度					
			所管課	道路河川室					
交付金事業の概要	<p>○高齢者等を対象に日常生活で起こるちょっとした困りごとを支援・解決する「地域住民どうしの助けあいの活動」を促進・支援する。</p> <p>○人口が減少している市南部地域(南横山)をモデル地区にして地域と病院やスーパーマーケット、鉄道駅を結ぶデマンド型交通(乗合タクシー)の実証運行を行う。</p>								
事業の背景及び目的	<p>○本市は、過去に人口増加率が府内でも1位、2位を争うなど、和泉中央駅周辺を中心にベッドタウンとして人口増加を続けてきたが、昭和40年代に開発されたニュータウン等では高齢化が進み、独居世帯や空き家等が増加し、地域の絆が薄れつつある。</p> <p>○また、市南部地域では、通勤、通学の時間帯にバスを運行し、公共交通を維持しているものの、交通網は脆弱であり、人口減少が続いている。</p> <p>○これらのことから、地域住民が支えあいながら生活を送ることができる環境を整え、多世代が交流する機会の創出を図るとともに、デマンド型交通による乗合輸送の実証運行を実施するなど、住み慣れた地域で持続的に安心して暮らすことができるコミュニティの形成を目指す。</p>								
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	5,500,000				委託料	3,561,940		
						(うち運行分)	(151,300)		
						(うち導入支援分)	(3,261,600)		
						(うち標識等設置分)	(149,040)		
	計		5,500,000			計		3,561,940	
取組①名称 : 南横山校区デマンド型交通実証運行事業									
取組の内容	<p>○地元住民や関係機関との調整を行いながら、デマンド型交通の運行に係る運行ルートの決定等必要な準備を行った。</p> <p>○タクシー事業者に業務委託し、デマンド型交通を運行した。 【実証運行の概要】 運行期間:平成30年1月4日~3月23日(毎日) 運行方式:運行ルート、停留所、ダイヤを設定し、予約があった場合に運行 使用車両:セダン型タクシー(乗客定員4人) 運賃:区間制 600円・500円・400円 小学生以下等の割引有 ダイヤ:平日5便、土休日4便 配車費用:1台あたり2,970円から運賃収入を控除した額。</p>				取組の意図・目的	<p>○買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段として、新たな輸送サービスであるデマンド型交通の実証運行を行い、地域公共交通の有用性を検証する。</p>			
					取組の実績・成果	<p>○デマンド型交通の運行及びアンケート調査の実施により、地元住民の利用実態など、本格運行の検討に向け必要なデータを取得することができた。</p> <p>&lt;利用者数及び配車台数&gt; ・平均利用者数38人/月 ・平均配車台数23台/月</p> <p>(内訳)利用者数/配車台数/配車可能台数 1月:27人/17台/262台 2月:43人/28台/262台 3月:45人/25台/216台 合計 115人/70台/740台</p> <p>&lt;運行経費&gt; ・1台あたりの配車単価:2,160円 (配車単価2,970円ー運賃収入の平均810円)</p>			

KPI (重要業績評価指標)	KPI① : サービス利用者数			
	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
	227	277	283	357
	KPI② : 高齢者雇用者数			
	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
	57	72	81	97
	KPI③ : 提供サービス数			
	現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
	21	36	29	61
	総合戦略における位置付け		基本目標	町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う市民の割合
		数値目標	H25 42.3% ⇒ H31 50.0%	
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由	
		B 効果的だった	○デマンド交通の実証運行を計画通り実施し、運行内容やアンケート等の検証に必要なデマンド交通の需要や満足度、市民の外出機会の変化等の必要なデータを取ることができた。	
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析	
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由		
	②維持(現状)	○本事業に係る実証運行の取り組みは平成29年度で終了したが、その結果を基に、本格運行の可否や実施方法について検証する必要がある。		
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○本格運行の可否等について決定するため、平成29年度の利用実績やアンケート結果を基に、利用者の意識や地域住民の意向等も含めて実証運行の評価を行う。</p> <p>○和泉市地域公共交通網形成計画(平成30年度策定予定)に基づいた公共交通ネットワークとの整合性を図り、評価結果を踏まえて、関係者・住民の意見を得ながら、本格運行に移行するか否かの判断を行う。</p>			